

育連だより

<http://web-k.jp/ikuren/>

育成連盟理事長の就任にあたり

新理事長 境 紳 隆



この度、小山前理事長の後任として理事長に就任致しました日本ボーイスカウト川崎地区協議会の境紳隆と申します。近年、育連加盟4団体の長が交代で理事職に就いていますが、小山前

理事長が日本ボーイスカウト川崎地区協議会の職を勇退され、境が就任いたしました為、慣例に従い小山前理事長の予定任期を引き継ぐこととなりました。これまでは、評議員として育連に関与して参りましたが、新型コロナ禍の終息が見えない中多少の不安はございますが、関係各位のご理解・ご協力を戴きながら務めを果たして参りたいと存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、ワクチン接種が進むにつれ新型コロナ禍終息の期待が高まっておりますが、感染力の強い変異株の登場によりその期待は遠のいた感があります。ワクチン接種が更に進むと共に特効薬が

登場するまで、以前のような活動に戻ることは難しいかもしれません。

自宅に引きこもり、時々オンラインで繋がってあれば一番安心かもしれませんが、果たしてそれで良いのでしょうか？育連加盟4団体がそれぞれ目指す所は、学校教育だけではカバーしきれない分野をそれぞれの活動で補うことにあると私は信じています。学校の枠組みを超えた同世代コミュニティ・異世代交流・様々な野外活動等は、青少年の心身に、或いは記憶に、豊かな稔をもたらし延いてはそれぞれの人生、のみならず社会をも豊かに潤すものと確信しております。ですから私たちは活動をあきらめる訳には参りません。

今後は更に「Withコロナ」を前提として活動するノウハウを開発・学習していかなければなりません。従来にも益して関係各位のご指導ご鞭撻が必要です。どうぞ宜しくお願い申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。

「ワクワク自然体験あそび」いつもの場所でいつもと違った遊びをしよう！

日本ボーイスカウト川崎地区協議会 隊長 陶山 優子
第54団 ビーバー隊

昨年12月、晴天の日曜日、小学校の中庭と隣接した公園で、近隣のお子さんとボーイスカウトの子どもたちで「自然体験遊び」をしました。

コロナ禍、感染対策をしながら、みんなで仲良く自然を体験し、ワクワクする企画をとリーダーや保護者が協力し、テーマ「いつもの場所で、いつもと違う遊びをしよう！」をもとに6つのブースを設けて、異学年の子どもたちで10グループを作り、実施しました。

近所の公園で自然を感じてもらうためには、小道具「自然物」が大切です。木の実も、団栗・銀杏・榎・胡桃・黒松・赤蝦夷松・ヒマラヤ杉の松かさ等々、いろいろ名前を知ってもらい、暗箱に実際に手を入れての手触りクイズや、団栗コマや木の実リースの工作をしました。また、ハンマー等の重さあて、熊・鹿・兎等の動物の足跡あてのクイズもしました。

また、冬の青空とお日様と木々に囲まれた広場

で歌い踊り、大きなダンボール箱に入り戦車のよう



に競争し、元気に体を使って遊びました。嬉しいことに、アンケートでは、お子さんのみならず大人の方々も楽しかったと感想をいただきました。自粛生活では体験できない、年代を超えたお子さんとの触れ合いと、思いっきり体を動かしたことから、心地よさを感じられたようです。

公園の小さな自然の中でも、五感と体を使った体験は、お子さんの心にワクワクした気持ちを残すことができたのではと思っています。



リーダー研修「わんこそうめん」

宮前区子ども会連合会 澤井純子

夏の風物詩といえば流しそうめん。この時季の活動は、例年ならば近くの竹林へ竹を切りに行き、節を取って流しそうめんをするのですが、今はコロナ禍ですのでそれができません。イベントを中止にするのは簡単なことですが、コロナ禍でも子ども達の一つでも多くの事を体験し、心の肥やしにしてもらいたいという思いから、皆で知恵を出し合い「わんこそば」ならぬ「わんこそうめん」はどうかと考えました。

コロナ禍における飲食で、どのようにしたら安全にできるのかよく考えました。本当でしたら、わんこそばのように次々と麺を足していきかけたのですが、お汁のはねや人の手を介すということを懸念し、紙コップに入れた一口そうめんを、自分で取り自分でお椀へ足すという方法を取りました。そして、空になった紙コップは積み重ね、どの位食べたかも分かるようにしました。一杯終わると手を上げ、替え玉を運んでもらいます。

コロナ禍での食事では、おしゃべりは禁物です。そのことを子ども達はよく分かっていて、ルールを守り、ただ黙々とそうめんを食べ続けていました。

お替わりも、声を出さず手を挙げるだけ。一言もしゃべりません。その上、この日は酷暑で日陰が一つもありませんでした。広場にいるのもとても大変な状況です。しかし、子ども達はがむしゃらに食べ続けていました。

声が聞かれないのは、正直に言って子ども達がどう反応しているのか分かりづらいことです。楽しいのか、しんどいのか、お腹いっぱいなのか。しかしあちらこちらでお替わりの手が挙がっていたことから、楽しめたのではないかと感じています。

さて、今回流しそうめんをするはずだったことは子ども達は知っています。この状況だからできなかった、ということも分かっていることでしょう。しかし、大人は何かしようとして臨機応変に対応しました。子ども達はそれに気づいてくれたでしょうか。時には一つの事に固執せず、チャンネルのスイッチをいち早く変えることも必要です。物事の本質を理解し、よく考え、柔軟性を持ち合わせた素敵な人間に成長してもらえたら、と願うばかりです。



カッターレース

川崎海洋少年団 山岡修

夏休みの行事といえば海洋少年団では、日頃の訓練の成果を試す場の全国大会があります。新型コロナウイルスの感染が危ぶまれるため、今年度は開催が延期となりました。

大会競技の一つの「カッターレース」を紹介いたします。船に親しむ活動の一つにカッターボートがあります。通常はボートを省略してカッターと呼んでいますが、船の長さが6メートル、船の幅一番広いところで2メートルの大きさで、こぎ手(こぐ人)が6名、艇長(運転する人)が1名、予備1名の計8名でカッターを動かします。

1レースは、4艇ごとに行われ、順位は全参加チームのタイムレースとなります。コースはスタートしてまっすぐに180メートル進み、折り返しをして往復360メートルの競技となります。レースの見どころは、止まっている状態から動き出すスタートと折り返し地点でうまく回転ができるこ

とが勝負どころとなります。

スタートは、こぎ手6人がそろってオール(※)を漕ぐことがカッターを滑らかに進める大切なこととなります。また、折り返しでは、スピードに乗ったカッターを左回りで180度方向転換をするわけですから、操舵のみでは方向を変えることはできません。左側のこぎ手はこぐのをやめ、右側のこぎ手は、早く回転できるように必死に漕ぎます。各チームが工夫して折り返しをするので、それぞれ違った技の回転を見ることができます。

延期になった全国大会は、令和4年8月に横浜で開催予定です。カッターレースに興味を持った方はぜひ応援にいらしてください。

※オール：カッターを漕ぐための櫂(かい)のことです。

カッターのオールは、長い棒状であり、一端の平らな部分を水に入れ、こぎ手はその反対側の柄の部分を持って操作します。



ガールスカウトの活動

ガールスカウト川崎市連絡会

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるにあたり、ガールスカウトへ2つの協力依頼がありました。

【国旗掲揚動画作成：東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会よりガールスカウト日本連盟を通じた依頼】

東京オリンピック・パラリンピック競技大会に参加する選手を歓迎するメッセージとして、参加国の国旗掲揚動画をガールスカウト・ボーイスカウトで撮影をしました。この動画は、選手村内の様々な場所に設置されたデジタルサイネージを通じて、選手のみなさんに届けられます。ガールスカウト川崎市連絡会はナイジェリア国旗の担当をすることになり、11名の中高校生のスカウトが参

加し、4組で川崎マリエンの撮影を開始しました。撮影中の背景に注意が必要で、車が走ってきたり、人が歩いてきたりするとそのたびに撮り直しをすることになりましたが、スカウトは撮り直しに何回も応じてくれて10秒の動画を2時間かけて撮影し、無事にオリンピック組織委員会に送る事ができました。

「私も東京オリンピックに携われる！」リーダーからお話を頂き、私はとても嬉しく思いました。

風になびきながら空高く登っていくナイジェリアの国旗はとても美しく、私は改めて自分がガールスカウトの一員であることを誇らしく思いました。

(レンジャー 鈴木晴子)



まずはオリンピックが開催されることに嬉しく思いましたが、大丈夫のかなという不安もありました。なので今は、オリンピックをやって良かったと思えるよう、私達は出来る事をするのが大切だと思いました。

(シニア 杉田真悠)

【七夕飾り：神奈川県スポーツ局セーリング課より依頼】

おもてなしの気持ちをこめて、神奈川県平塚市で有名な七夕飾りを作成し、多くの選手たちが立ち寄る競技会場や事前キャンプの練習地に展示しました。それぞれの団でスカウトたちが紙で花を折り、それを地区でまとめて七夕飾りを作成しました。

神奈川県それぞれの地区からカラフルな七夕飾

りが集まり、川崎地区の七夕飾りは江の島ヨットハーバーに飾られました。

コロナ禍で我慢をすることが多いことありますが、一人でも多くのスカウトたちが今回のオリンピックに関われて、良い思い出になったらと思います。



【夏季キャンプ】

ガールスカウト神奈川県第32団

御殿場・国立中央青少年交流の家に一泊二日で2年ぶりの団キャンプに行ってきました。到着時、雲に隠れていた富士山も雄大な姿を見せてくれ、心も身体も癒されたキャンプでした。

水道から出る水をコップについだら、おいしかったです。水道から出る富士山の水は、ふつうの水より少し味がありました。おいしかったのでまた飲みたいと思いました。

ディスクゴルフをやっている時はとても暑かったですが、水とうの水を飲みながら、最後までできました。

(ブラウニー・夏希)



富士山が見られて良かったです。登ったら感動すると思いました。

クラフトでエコバッグに落ち葉で型押ししました。きれいに出来たので良かったです。

また行ける様になったらテントを張ったキャンプもしたいです。

(シニア・玲奈)



子ども会に入ろう！

麻生区子ども会連合会 会長 本 田 知 生

【チラシ配布で加入者増加！】

コロナウイルスの影響が続いており、活動の制限が続く中でも「情報発信はできる」ということで、子ども会を知ってもらい、加入者数を増やす目的でチラシを作りました。それを小学校の校長先生の集まる会議でご了承いただき、麻生区内の全小学校で全生徒に配布していただきました。その結果、チラシを見た数名の加入希望者があり、仲間に加わってもらいました！

このチラシ配布を行ったことでの気づきとして、子ども会の存在を知らない、または、存在は知っていてもどこに連絡してよいかわからない等で、加入希望者に手を差し伸べられていない状況がよく見えました。やはり、情報を正しく早く伝えるというのはとても大切なことで、「コロナで活動できなくてもやれることはある！」と自信を持つことができました。

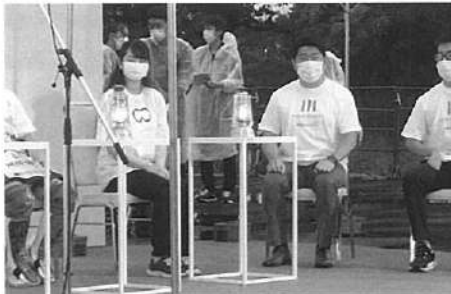
ただ、毎年紙に印刷して配布するのは、実際にはとても大変なことですので、インターネットでの掲示や、SNSでの横のつながりを利用して拡散してもらえるような事も考えていくのがよいと思っています。

何事も継続するのが大切なので、これからもいろんな情報発信にチャレンジしていこうと考えています！



【パラリンピック採火イベント参加】

8月14日(土)夕方、等々力陸上競技場横の広場で川崎市のパラリンピック聖火フェスティバルが行われました。ジュニアリーダーの駒形美玲さんが麻生区代表として選出され、立派に採火の役を務めてくれました。



福田川崎市長とともに



大会の成功を祈って

「川崎市子どもの権利に関する条約」施行20年記念 子どもの権利条約フォーラム2021 in かわさき 11月6日(土)・7日(日)に開催!

【会場】 6日(土): すくらむ21 7日(日): 下作延小学校、夢パーク、てくのかわさき

♪全国の皆さんと子どもの権利について考えていきます♪

詳細はHP (<https://kawasaki2021kfrc.webnode.jp>) へ!

育成連盟も共催しています。是非、ご参加ください!

1993年から毎年、全国各地で開催している大会です。フォーラムを通して子どもの皆さんの参加を図り、「子どもの権利条約」の実施・普及や子ども支援に取り組む個人・NGO/NPOとの交流、自治体との協力提携など進めています。

発行 川崎市青少年育成連盟
事務局 〒213-0001 高津区溝口1-6-10
生活文化会館(てくのかわさき) 3階
TEL 044-811-2125 FAX 044-811-2126

青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、
川崎市青少年育成連盟事務局へ

印刷 有限会社 アキプリント社